

令和4年度 大阪府立東淀工業高等学校
第3回 学校運営協議会議事録

令和5年3月22日

・協議案件

- 1 「令和4年度学校経営計画及び学校評価」（年度末評価）について

・議事録

- 協議会委員からの意見 ⇒学校の返答
- 学校内に生徒の「居場所」となるもの・ことが存在することが「学校が楽しい」「クラスが楽しい」の肯定的な数値になっているのではないか。
- 人と人とのコミュニケーションができていて、級友や教職員とのつながりが大きいと考える。
- 教職員が生徒とよい関係で接してくれていると感じている。
⇒学校としては、クラブ活動をはじめ、様々な取組を通し、生徒の学校内での居場所づくりを進めている。
- 生徒の学校への意識を数値化できていることはいいことである。その中で「資格取得」の数が減ったのはなにか理由があるのか。
⇒過去には、全員に資格取得に挑戦させていたが、生徒にとってはそこが負担になっていたことが分析によりわかってきた。そこで、現在では、希望するものに補習や補講等を講じて、より高い資格に挑戦させている。受験数は減ってはいるが、合格率は上がっている。生徒の挑戦する意識の向上をどうすることがいいのか模索しているところである。次年度においては、生徒へのアプローチの仕方を工夫し、生徒が挑戦しようと思えるような資格取得への取組にしたい。
- 遅刻等の多い生徒の情報やSSWとも共有できているか。
⇒課題のある生徒や不登校傾向のある生徒、仕事に取り組みたいが、面接等でうまくつながれない生徒への支援を中心に行ってもらっている。
- 遅刻の多い生徒へは短時間でもいいのでSSWとの面談などにつなげるのも一つの方法と考える。
- 保護者として、放課後に子供たちが学校で居場所がある「放課後カフェ」があるのを知ったのは、今年度の文化祭の時だった。もっと保護者にも知ってもらい、保護者にも協力できる形にしてもらってもいいかも。
- 新型コロナウイルス感染症の取組の中、中学校も生徒の欠席や遅刻に対するハードルが下がったように感じている。
- 中学校卒業後すぐに通信制の学校に進学入学する生徒が増えてきている。進学を考える中、大きく進学先選びも変化してきていると感じている。
- 次年度においては、達成できているところは引き続き強く推し進めてもらって、達成できなかった部分については、取組方法などを工夫してもらってより生徒が肯定的な学校生活を送れるような学校づくりをお願いしたい。